

 座間市情報提供（イベントなど）		情報提供日
		令和7年2月17日
タイトル	令和6年度文化財講座「入谷歌舞伎 春から君も歌舞伎役者！」	
とき	3月27日（木） 午後1時30分～3時	
ところ	市公民館 2階和室	
内容、セールスポイント	<p>座間の市指定重要文化財「入谷歌舞伎」について、参加型の講座を通じて若手の担い手を発見・育成することに貢献し、また郷土愛の醸成に寄与し無形文化財の普及・周知を図ります。</p> <p>難しい稽古はないため、興味関心がある若い世代の参加を期待しています。</p> <p>（1）入谷歌舞伎について 由来、黒子の役割など</p> <p>（2）入谷歌舞伎「白浪五人男」の鑑賞とセリフ言い回し</p> <p>（3）役者の方と記念撮影（小道具を持ってなりきります）</p>	
講師	入谷歌舞伎会	
対象	市内在住・在学の小・中学生、高校生	
定員	20人（申込順） ※保護者の見学も可能です。	
参加費	不要	
申込方法	3月1日（土）以降に電話、ファクスまたは直接担当へ	
写真	 <p>令和5年度入谷歌舞伎公演「白浪五人男」の様子</p>	
その他	<p>令和6年度の入谷歌舞伎公演は、ハーモニーホール座間の大規模改修工事により開催ができませんでしたが、</p> <p>現在、入谷歌舞伎会は、伝統芸能の継承のため、若手世代の育成に注力しつつ、日々精進しています。</p>	
問い合わせ先	<p>教育部 生涯学習課 文化財担当</p> <p>TEL 046（252）8431 FAX 046（252）4311</p>	

(参考) 入谷歌舞伎

江戸時代になると様々な庶民の娯楽が隆盛しましたが、素人の歌舞伎芝居は地芝居（ジシバイ）と呼ばれて、江戸時代末期よりしばしば上演されていました。座間にはそのほか、明治初期には人形芝居の一座もありました。

職業的なものとしては、明治二十年頃、座間上宿の菊田仁左衛門が東京から招いた歌舞伎役者も加えて菊田座を創設し、各地を巡業して歩きました。太神楽の「蛭間座」や新田宿の「本多弥助座」も明治中期以降その芸を伝えていましたが、両座とも昭和二十年頃頃から衰退してしまいました。

その後、歌舞伎の芸に携わる人たちは入谷地区を中心に「入谷歌舞伎会」を結成し地芝居の伝統を伝え、義太夫の流れを汲む浄瑠璃の芸に携わる人たちは、「寿会」をつくり、昭和四十六年に合同して、「座間歌舞伎会」を組織して古典芸能の保存につとめてきましたが、昭和五十八年の公演を最後に活動停止しました。

しかし、地芝居部門については平成八年（一九九六）に地元入谷地区の人々が中心となって「入谷歌舞伎会」を再び結成し公演活動などを行い現在にいたっています。

現在、会員数は島村利明（しまむらとしあき）会長以下、39名（令和6年4月現在）を数え、市民芸術祭の一環としてハーモニーホール座間で公演を続けています。



平成 27 年度入谷歌舞伎会公演